

水
高

浜田水産高校「同窓会会報」

翠香

〒697-0051

浜田市瀬戸ヶ島町 2 5 - 3

TEL 0855-22-3098 Fax 0855-23-4811

E-mail hamasui-01@shimanet.ed.jp

H P http://www.shimanet.jp/hamasui/

携帯HP http://www.shimanet.jp/hamasui/keitai/



会長あいさつ

浜水会会長 山崎 晃

会員の皆様におかれましては、全国各地で日々ご活躍のこととお喜び申し上げます。平素は、母校及び同窓会「浜水会」の発展のため物心両面のご高配を頂き厚く御礼を申し上げます。

げます。

私は、平成 20 年 9 月に第 4 代目の会長に就任しました。就任に当たり 4 つの目標を立てました。そして、①会員名簿の発行②広島支部、松江支部の再度の設立③会報「翠香」の発行を実現してきました。4 つめの浜水会単独総会の開催につきましては、平成 26 年度の事業として実行委員会を数回開催し、11 月 23 日（日）に待望の 3 年に一度開催の「総会・懇親会」をジョイ・プラザで開催したことは記憶に新しいところです。参加人数は 134 名と目標に届きませんでした。盛大に開催することができました。関西浜水会より 2 名、広島支部より 4 名、松江支部より 7 名のご出席をいただき花を添えていただきました。ご夫婦が 2 組、親子 1 組の参加がありましたのも大変嬉しい限りです。3 年先の「総会・懇親会」は、人数、ご夫婦、親子の参加が増加することを期待したいと思います。

今年度は、27 年の事業として「浜水を語る会」の開催に取り組むことにしました。この企画は中村洋一副会長の発案で、数年前より役員会で協議を重ねておりました。平成 26 年度は、3 年に一度の総会・懇親会を開催しましたので、27 年度、28 年度は浜水を語る会の開催をしようということになりました。実行委員会は、会長・副会長・事務局で担当しました。何しろ初めての試みなので、参加者が 30 名以下なら取りやめという文面を記載しておきました。第 1 部の浜水を語る会は、31 名、第 2 部の懇親会は、32 名の申し込みがありました。

平成 28 年 2 月 28 日（日）、第 1 部は浜田水産高校の視聴覚教室において「浜水を語る会」を 14:00～17:00 まで開催しました。3 期生から 57 期生までの 31 名が参加し、年齢差が 54 歳ありました。語る会の進め方に当たり、中村洋一副会長より説明をして頂き、順番も決定いたしました。① 12 期 F 山崎 晃② 3 期 F 吉中克吉③ 12 期 E 江川 勝④ 15 期 F 中村洋一⑤ 29 期 F 山本省三の 5 名は、原稿を用意して持ち時間 15 分の設定でしたが、皆さん 20 分～25 分かかりました。

私は、浜水高に入学してから 2 年生・3 年生・専攻科生の 5 年間について 25 分語りました。1 年時の思い出として、校歌を聞いて感動したこと、海洋

実習では、カッターと伝馬船・結索・手旗信号・モールス信号、校歌・応援歌の練習や体育祭、寒中水泳、春秋の遠足、陸上競技場での弁当持参の体力測定、日脚町までの 10 マイルロードレース等楽しいこと苦しいことなど貴重な体験をする事ができました。（について語りました。）今の私があるのは、1 年時に、何事にもチャレンジ、クラスが一致団結して積極的に取り組む事ができ、逞しく成長できたのは、担任として異色な組合せの笠井・開藤両先生のお陰だと感謝しています。

4 名の皆さんも、当時の浜水高時代の経験や体験を熱く語っていただきました。終わるたびに大きな拍手が響きわたりました。そして、参加して頂いた卒業生の皆さんには、順番に自己紹介を行いながら浜水高時代の思い出を語って頂きました。

第 2 部の懇親会は、浜田ステーションホテルで 18 時から開催いたしました。参加者は 32 名となり、浜水を語る会も無事終わり、和気あいあいの中で、楽しい懇親会を終了する事ができました。

母校を取り巻く状況は、少子高齢化の影響により、高校入試では生徒の定員確保が最大の課題となっており、募集定員の確保も毎年厳しくなっています。2 月 29 日は、浜水会入会式に、3 月 1 日は卒業式に参列しましたが、定員 80 名に対して卒業生は 33 名、専攻科修了生は 7 名で寂しい限りでした。そのような中で、海洋技術科海洋コースの前田麻美さん（弥栄中出身）が、3 級海技士（筆記）に見事に合格されました。この資格は専攻科へ進学して取得する免許状でもあり、女子生徒の取得は浜水高では初めての快挙です。浜水高卒業生の 6, 175 名の皆さんと喜び合いたいと思います。

終わりに、浜田水産高校のますますの発展と会員の皆様のご多幸とご健勝を祈念いたしますと共に、浜水会の発展のため一層のご指導とご鞭撻を賜りませうお願いいたします。



浜水を語る会参加者集合写真

一年間を振り返って
 学校長 中村 公一



平成 27 年 4 月 9 日に入学式を行い、本科生 47 名、専攻科生 10 名が入学し浜田水産高校は 140 名でスタートしました。また、「望水寮」も入寮生 11 名を迎え、ほぼ定員に近い 27 名となりました。

さて、本校の使命は、教職員一同が海・船・魚を教材とした水産教育と神海丸等を活用した練習船教育を實踐して、少子化時代の小規模水産高校をいかに活性化し、元気の良い生徒を育み、専門性を有した働き人として社会へ送り出すことが教育ができるかということだと思います。また、様々な思いで入学してきた生徒に対し、教職員が情熱を持って夢を語りかけ、そして誠実に学ぼうとする生徒達が共鳴することで、多様な力を付けてやり卒業時には、生徒・保護者共々が浜田水産高校に入学して本当に良かったと思っただけのような学校にしていくことであると思います。具体的には生徒達に付けてやりたいことは以下のとおりです。

- (1) 本校が専門高校である以上、資格取得は重要であります。一年生の早い段階から資格を取得させて自分でも頑張ればできるということ、努力することが大切であるということをお伝えしたい。
- (2) 実習等の様々な教育活動を通して、生徒が社会へ出たときに困ることがないように、きちんとした挨拶や言葉遣いができる。また、相手の心の痛みを感じ、相手を思いやる気持ちを持つことができるように育てたい。
- (3) 生徒が悪いことをしたときには、教職員も本気で指導して自分が悪かったと素直に認めることができるようにしてやりたい。



町内大掃除（田町）に参加する寮生
 町内のイベントに参加し、県外出身者の多い寮生も少しずつ浜田の街に馴染んでいきます。

このような思いを抱きながら、教職員一同は一年間、生徒達へ指導を続けました。その結果、生徒達は確実に心身共に成長していることを確信しました。生徒達がきちんとした服装で高校生活を送り、元気に挨拶をする声が校内各所で聞くことができたり、校外での実習製品の販売等における積極的な態度での本校の PR 活動、部活動の各種大会において、すがすがしい競技マナー等、あらゆる場面で活躍する生徒達の姿を見ると、浜田水産高校は良い学校になってきたと感じているのは私だけではないと思います。

平成 28 年 3 月 1 日に卒業・修了式を行い、本科生 33 名、専攻科生 7 名が我が学び舎を巣立っていきました。地元就職した 50% 以上の生徒が水産関連産業に就職したことは、全国の水産高校の中でも突出しているものです。これからも浜田の基幹産業である水産業はもとより、地域産業の後継者を育成することで地域に貢献するという本校の使命を十分に認識して、「地域と共に・地域に応える・浜田水産高校」をめざして頑張りたいと思いますので、「浜水会」の皆様におかれましては、引き続き本校の教育活動に対するご理解とご支援をお願いいたします。



島根ふるさとフェアでの販売・PR活動

平成 27 年度 浜水会役員会

日時：平成 27 年 6 月 28 日 10:00 ~ 11:30

場所：浜田水産高校会議室

会長、副会長、顧問の 3 役をはじめ、理事及び事務局 15 名の合計 18 名の参加により、平成 27 年度役員会を開催しました。

議事の概要は以下のとおりです。

議題

① 浜水会規約一部改正（案）

案のとおり役員会では承認されました。ただし、会則の改正は総会で協議する事になっているので、次回 29 年度の総会に案として提出される予定です。

- ②平成 26 年度事業報告
事務局より報告、承認されました。
- ③平成 26 年度決算・監査報告
会計担当より同窓会会計及び名簿積立金会計の決算報告及び、会計監査より監査報告が行われ、承認されました。
- ④平成 27 年度事業計画（案）
事務局より提案があり、承認されました。
- ⑤平成 27 年度予算（案）
会計担当より提案があり、旅費に関する支出を見直すことを条件に、承認されました。
- ⑥浜水会役員の更改
今年度が役員更改の年に当たるため、会則に則って行うことを承認して頂きました。
- ⑦今後の取組について
三隅支部・出雲支部の再度立ち上げ、仁摩支部を発展させて大田支部として立ち上げる。新たに益田支部の立ち上げに努めていく。
- ⑧その他
 - ・校歌CDの販売推進について
 - ・翠香の冊子を発行したい
 - ・「水高を語る会」の開催について

出席者

会長 山崎 晃 (12 F) 副会長 中村洋一 (15 F)
吉中克吉 (3 F)

【理事】

松山康明 (15P) 島田秀男 (15P) 前 滋 (16P)
田中輝隆 (17P) 榊原 等 (19E) 佐々木幸治 (22E)
中田浩一 (27F) 千代延 英信 (38P) 長田暁史 (40E)
山崎 淳 (42F) 江木勝義 (45K) 梅田純一 (51K)
日原和浩 (55K)
事務局：山本省三 (27F) 榊見健太 (57K)



校歌・応援歌集（平成 24 年度作成）
1 枚 1,000 円で販売中です。ご希望の方は事務局までお知らせ下さい。（校歌・水高賛歌・黒潮うずまく・瀬戸の入江が録音されています。）

広島支部総会・懇親会

日時：平成 27 年 7 月 12 日（日）12:00～16:00

場所：ホテルセンチュリー 21 広島

役員改選

（新任）理事 山本 治 (19E)

（退任）理事 前原 正和 (26F)

議題

平成 26 年度会計・監査・行事報告・質疑応答その他

【参加者：浜水会より】

12F 山崎 晃（会長）

28F 中村公一（校長）

25F 中村 實（浜水会事務局）

【参加者：会員】

3F 栗山利男（福岡）・4F 小林義久

10P 中川平介・宮脇 勝・佐々木博

11P 井上範昭・15P 島田秀男・橋岡茂徳・西尾朝雄

16P 河田英司・佐藤 隆

17P 白川克範・小川耕次・田中輝隆

18P 舛田 隆・岡本廣志・19E 山本 治

24P 水野重敏・25F 野崎俊明・31E 亀田耕司

広島支部では 7 月の総会を迎えるために、1 月から 3 回の役員会を開いて準備をしておられるようです。また、総会資料の終わりに、総会を欠席される会員の方より届いたメッセージが、一覧となって綴られています。皆さんの様子を窺い知ることができ、貴重な資料となっています。



平成 27 年度広島支部総会

関西浜水会総会・懇親会

日時：平成 27 年 10 月 4 日（日）11:00～14:00

場所：ニュー オオサカ ホテル

議題：会務報告・平成 26 年度会計報告・監査報告

【参加者：来賓】

15F 中村洋一（浜水会副会長）

28F 中村公一（校長）

8P 樋口善吾（名誉会員）

【参加者：会員】

6P 三谷繁尚・7P 東 義人・湯浅 勲
 8P 濱田耕一・井上美智代・10F 大矢博文
 10E 佐々田 洋・島内清美
 10P 田野 博・井上稔義
 11P 寺戸信吾・村永 剛 花見静夫
 13P 大畑賢二・藤沢敏子・16F 石橋克幸・中森 稔
 16P 村上義幸・17P 白川克範
 19P 山田恵総・山田(夫人)・21P 澄川秀幸
 28P 小玉喜子・30P 松林郁子・32F 長谷川清次
 32E 江川達也

関西浜水会総会も21回を数え、会員の皆様にとっては年中行事として定着しているようです。皆さんに負けないように、本部事務局も頑張りたいと思います。



第21回 関西浜水会 総会 平成27年10月4日 於 ニュ・オサカホテル

「浜水を語る会」

規約により本部の総会は3年に1度となっており、総会の無い年には会員が集まるような事業がありませんでした。そこで、総会非開催年にも会員が集まるような機会を設けようということで、今年度は「浜水を語る会」を開催しました。

第一部は視聴覚教室において、浜水での思い出や、卒業生であることが後の人生に与えた影響など、参加された皆さんが思い思いに「浜水」を語られました。思いがけない話を聞くことができ、心に残る貴重な時間となりました。

第二部は「浜田ステーションホテル」での懇親会でした。第一部では出てこなかった話が出てきたり、年配の会員と若い会員が親しく話をする機会となりました。和やかな時間で、あっという間に過ぎていきました。

「浜水を語る会」は何分初めての事業であり、今回は「テスト開催」の性格もありました。行ったことにより改善点に気付いたり、開催のためのノウハウを得ることができたので、徐々によいものにしていくことができると思います。皆さん機会があればぜひ参加して下さい。

「浜水を語る会」

第一部

期 日：平成28年2月28日（日）
 時 間：14:00～17:00
 場 所：浜田水産高校視聴覚室
 参加者数：30名

第二部

期 日：平成28年2月28日（日）
 時 間：18:30～20:30
 場 所：浜田ステーションホテル
 参加者数：31名



浜水を語る会 第一部（視聴覚教室）

【参加者】

3F 杉本祥太郎・吉中克吉
 10E 延川 豊・藤本喬士・12F 山崎 晃
 12E 佐々木基次・江川 勝・13F 江後泰治
 13P 濱野孝司・14P 下谷輝幸・15F 中村洋一
 19F 中村健一・19P 岩川 清・来栖和博
 20F 釜江真二郎・24F 米谷靖夫・24E 橋本広幸
 25F 中村 實・27F 岡村一友・中田浩一
 28F 原田俊治・中村公一・29F 山本省三
 31P 川辺由紀恵・畑真由美・38F 竹内正行
 38P 千代延英信・40E 長田暁史・42F 山崎 淳
 45K 江木勝義・45R 植野太朗・51K 梅田純一
 55K 日原和浩・57K 中原俊一・日原悠太



浜水を語る会 第二部（浜田ステーションホテル）

平成 27 年度学校の様子

平成 27 年度入学式：4 月 9 日（木）



海洋技術科 26 名、食品流通科 19 名、専攻科生 10 名が入学し、新たな学校生活をスタートさせました。

日本海南部地区カッターレース大会

6 月 21 日（日）：浜田漁港内水面



浜田水産クルー

【最終結果（合計タイム）】

- 第 1 位 京都府立海洋高校（11 分 21 秒 32）
- 第 2 位 島根県立浜田水産高校（11 分 57 秒 32）
- 第 3 位 山口県立大津緑洋高校（12 分 19 秒 15）
- 第 4 位 島根県立隠岐水産高校
- 第 5 位 兵庫県立香住高校
- 第 6 位 鳥取県立境港総合技術高校

以上の結果、浜田水産高校カッター部は準優勝となり、7 月 29 日～ 30 日に長崎市で行われた全国水産・海洋系高等学校カッターレース大会に出場しました。（全国大会では予選 1 回戦を 3 チーム中 1 位で通過。2 回戦で残念ながら敗退し、準決勝へは進むことができませんでした。）

体育祭：9 月 12 日（土）



水高祭：10 月 24 日（土）25 日（日）



弓道部中国新人大会出場



県選手権大会で男子団体第 3 位となり、出雲市で開催された中国新人大会（11 月 20 日～ 22 日：県立浜山体育館）へ出場しました。他にも個人として、S2 江木綾華さん、K1 千代延幹太さん、佐々木知典さんが出場しました。

男子団体は予選 24 射 18 中で通過しましたが、決勝トーナメント 1 回戦で岡山県の興陽高校に敗れてしまいました。また、個人戦で出場した選手も健闘しましたが、入賞には至りませんでした。しかし、昨年も中国新人大会へ出場、H26 年度はインターハイ出場と頑張っています。



平成 27 年度課題研究発表会

1 月 15 日(金) : いわみーる



「いわみーる」を会場に、平成27年度課題研究発表会が行われ、海洋技術科・食品流通科の3年生が課題研究で取り組んでいる内容を発表しました。

研究テーマ

【海洋技術科】

- ・ものつくりとソーラー発電システムの応用について
- ・SUIKO PROJECT 2015
- ・フリー配偶体技術を利用したワカメ養殖
- ・平成 27 年度人工魚礁効果調査

【食品流通科】

- ・ブリ肉を使ったレトルト食品の開発
- ・実習から出る残滓（生ゴミ）の利用を考える

「海風に吹かれて」

30E卒 下中 修司

昭和56年7月に島根県教育委員会より発行された「教育広報」が今も私の手元にあります。35年前に発行されたその冊子は全てのページがセピア色に色褪せ、過ぎた年月を物語っています。表紙をめくると、当時の「神海丸」の乗組員の皆さん、マグロ延縄実習の操業風景、郷土訪問の様子を移したモノクロの写真が掲載され、郷土訪問記念懇談会の様子や、1年間に及ぶ操業実習の軌跡など25ページにわたって詳しく紹介されています。

その冊子には、昭和55年5月機関科専攻科生として「神海丸」へ乗船し、1年を通して3航海（約250日）のマグロ延縄実習を終えた復路航海の船内で思いのままを綴った、確かな自信と若さに満ち溢れた私自身の乗船実習記が掲載され、これまでに実社会での矛盾や困難、他人との軋轢などの様々な問題に直面した時、当時のその実習記を読み返すことで、何度も勇気づけられてきました。「神海丸」での航海実習で培った自信と誇りが、私の人生の確かな礎となり、あらゆる局面において、ゆるぎない指針を定める大きな原動力となった事と確信しています。

三國シェフ講演会 : 1 月 18 日(月)



フレンチのシェフとして有名な三國清三さんの講演会がありました。生徒たちは、三國シェフの力強い言葉やユーモア溢れるトークに引きつけられ食い入るように話を聞いていました。



初代神海丸（昭和 44 年 2 月～昭和 58 年 1 月）

同窓会入会式 : 2 月 29 日(月)



卒業式の前日に入会式が行われます。今年は海洋技術科 21 名、食品流通科 12 名の計 33 名が新会員として入会しました。

さて、水産業を基幹産業とする浜田市においては、昭和50年代から平成8年にかけてマイワシの漁獲量が激増し、県内はもとより県外の大型中型まき網船団のマイワシの水揚げで、港内は溢れるほど賑わい、浜田漁港が最も隆盛を極めた期間でした。しかしその後、マイワシ資源の枯渇により漁獲量が激減し、漁業生産者や水産関連会社の廃業や撤退という厳しい漁業環境となり、様々な経営努力や助成事業などの導入により、浜田市の水産業の根幹は辛うじて保たれていきました。そのような状況の中、浜田水産高校では年を追うごとに地元底曳網漁業、地元中型まき網漁業への新卒者の就業が増加し、漁業関係者の大きな喜びと期待を寄せる声が年々高まりを見せ、雇用条件の見直しや船内環境整備が推進されました。

現在、我が母校の正門前に事務所を構える漁業会社に勤務する私は、毎年弊社に乗組員として入社さ

れる皆さんや、インターンシップで職業体験に訪れる本科生の皆さんと集い、現代社会に直面する若者達の声に耳を傾ける機会があります。パソコンや携帯電話などの普及により、世界中のありとあらゆる情報が蔓延する現代社会を生きる若者達、そんな彼らと色々な話をすると、私が思う以上にずっと素直で逞しく、頼もしささえ感じてしまうほど充実した時間が過ごせます。それは、水産高校ならではの実習教育や、専門的な課題研究などを研鑽し、心身共にスキルアップした現代の水産高校生の姿なのだと心から実感することができます。



瀬戸ヶ島の岸壁に係留された巻き網漁船

漁業に就労した友人達と年に1度、定期的に杯を酌み交わす機会があり、その赤銅色に日焼けした顔に年々刻まれる幾筋もの皺に、長年の海上での苦労を窺い知ることができます。その折にはいつも決まって孫の自慢話や持病の話で近況報告、そして酔いが進むにつれ高校時代へ気持ちはさかのぼり、航海実習や部活動、謹慎や停学処分顛末など、いつしか皆が学生時代へとタイムスリップ。10代の頃と変わらぬ笑顔で和気あいあいと過ごす時間に「若潮丸」の船上で同じ釜の飯を食べ、励まし合いながら海風に吹かれたあの頃の出来事が、懐かしく思い出されます。

私も含めて子供達が水産高校へ進学し、親子共々同窓生という家庭も少なくなく、教員の皆さんや練習船の乗組員の皆さんとの世代を超えた深い絆も、水産高校ならではの特色であり、卒業生をいつでも暖かく迎え入れて頂ける校風は、他の高校にはない特筆すべきものでしょう。

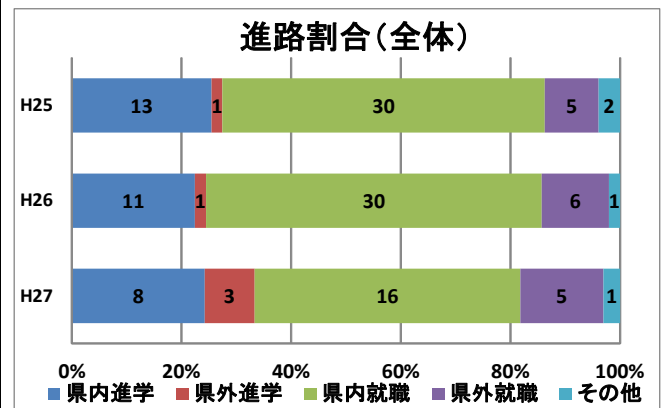
通学路を歩き交う制服姿の水産高校生達を眺めながら、海風に吹かれた高校時代を振り返る時、カッター漕艇訓練のオールの重さや、時化の海での船酔いの辛さ、厳しい自然環境の中で学ぶ操船技術や五感をフル活用して機関運用を学んだ日々などの様々な出来事が、何事にも変えがたい充実した日々で有ったと思えてきます。

時は流れ、時代は変われども、瀬戸ヶ島の学舎に吹き来る海風はいつの世も、実社会への即戦力としての糧を養い学び、心身ともに成長した水産高校生達の大いなる飛躍の追い風となってきたことでは

う。
今後の浜水会の活動に微力ながら参加させて頂くことを約束し、それぞれの世代の同窓生を繋ぐ浜水会の一層の発展と、同窓生の皆様の更なるご健勝とともに、浜田水産高等学校の益々のご繁栄を心からお祈りいたします。

今年度の進路状況

平成25年度から27年度までの3年生進路状況を比較した下のグラフをご覧ください。平成27年度は33名の卒業生のうち、県内進学が8名(24%)、県外進学が3名(9%)、県内就職が16名(49%)、県外就職が5名(15%)、その他が1名(3%)となっています。



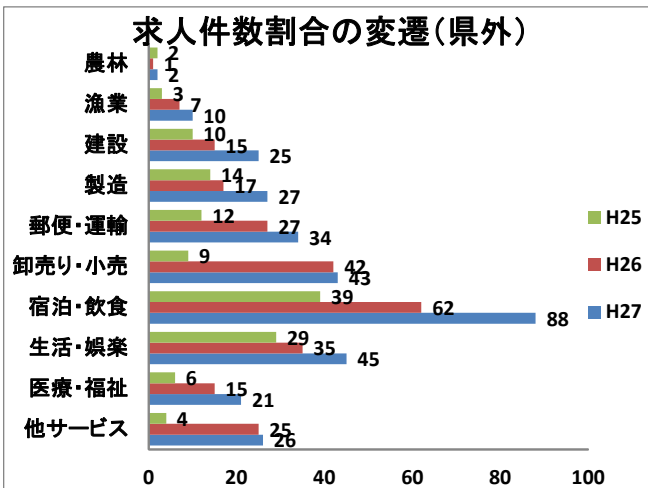
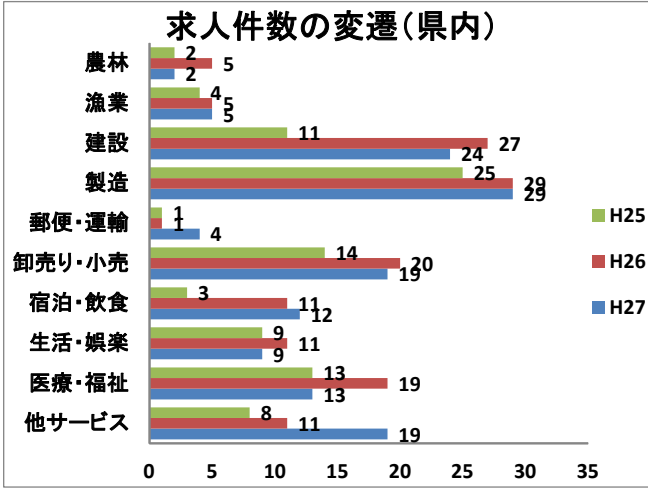
平成23年度以降、就職した生徒のうち地元(浜田・江津地域)を中心に県内へ就職した生徒の割合は80%を超えていましたが、今年度は76%と5年ぶりに8割を下回りました。しかし、この数字でも県西部の高校の中では県内就職の割合が、最も高い学校だと思われま。

一方県外進学と県外就職の割合は増えました。今年度の3年生は県外出身者が多く、卒業後は自分の出身地での就職を希望する生徒もおり、この割合が妥当といえるかも知れません。2年生、1年生にも県外出身の生徒が少なくないので、この傾向は今後も続くような気がします。なお、進学先で最も多いのが専攻科であることも付け加えておきます。

少し見にくいですが、次は求人件数の変遷を示したグラフをご覧ください。県内と県外からの求人にはどんな特徴があるかよく分かります。県内求人は平成25年度から26年度にかけて大きく増加していますが、26年度と27年度では大きな変化は見られません。むしろ件数的にはわずかに減っています。従って現段階における県内求人数、特に地元といわれる浜田・江津地域においては、この数が上限に近いのではないかと思います。そして求人内容は建設・製造業が多くなっており、過去の生徒の進路先で最も多いのも製造業となっています。

県外求人の中で目立っているのが、宿泊・飲食業からの求人で、ファミリーレストラン・回転寿司店・ホテルなどが主なものです。件数が最も多く、毎年増加しているのが分かります。卸売り・小売や生

活・娯楽などを含めたサービス業からの求人数が、建設・製造業を大きく上回っています。しかし、これらのサービス業は、生徒たちが就職先を選ぶときの対象となりにくいようで、あまり進路先となっていないのが現実です。



卒業生進路先

【海洋技術科】

卒業生 21 名のうち進学 7 名（専攻科 6 名、広島工学院大学校 1 名：広島）、就職先は農林業 1 名（こめ奉行：広島）、漁業 6 名（裕丸、浜田あけぼの水産、浜吉水産、宝吉丸：以上浜田市）、食品製造業 3 名（大磯：浜田市、白地水産：広島）、船舶乗組 1 名（国立研究開発法人海洋研究開発機構：神奈川）、造船 1 名（ジャパンマリンユナイテッド：広島）、サービス業 2 名（金城モータース、ハゼヤマ石油：以上浜田市）となりました。今年も漁業や船舶関連産業への就職者が多くなっています。

【食品流通科】

卒業生 12 名のうち進学 4 名（西部高等技術校：益田市、松江栄養調理製菓専門学校：松江市、大阪美容専門学校：大阪、岡山学院大学：岡山）、食品製造業 2 名（マルハマ食品、石見食品：以上浜田市）、製造業 3 名（キーパー、島根合板、ハイレックス島根：以上浜田市）、サービス業 2 名（岩永モータース、服部タイヨー：以上浜田市）、販売 1 名（WEGO 心齋橋店：大阪）となりました。

【専攻科】

専攻科生は修了生 7 名のうち、内航海運 1 名（泉汽船：東京）、タグボート 2 名（神原タグマリンサービス：広島）、石油備蓄 1 名（福井備蓄マリン：福井）、船舶乗組 3 名（国立研究開発法人水産総合センター：神奈川、水産庁：東京、国土交通省中部地方整備局名古屋港湾事務所：愛知）となっています。

今年も卒業生が社会へ出て行きました。皆さんのすぐそばにいるかも知れません。世代は違いますが同じ浜田水産高校の卒業生です。気付いた時には声をかけて励ましてやって下さい。よろしくお願いします。

事務局保管の写真

皆さんがお持ちの浜田水産高校に関する貴重な写真を事務局に貸して頂けたら喜びます。（電子データにして保存したいと思います。）



製造実習

水産製造科の製造実習です。何を作っているのでしょうか。（昭和 40 年代の後半？）



初代若潮丸

竣工式後なのか大漁旗を掲げている。遠くに見えるのは瀬戸ヶ島か。